の[illegible]利

参

へ13
3542
3

門 ヘ 13
號 3512
巻 3

早稲田大學図書館
昭31.10.5
藏書

青山

本草纂要巻之三

飲疏食飲水曲肱而枕之樂亦在其中矣

れ楽しいと伝へ来るも楽しいと乃
ち楽しみ面白き事なれば時を忘れ楽しい慰ぎ
るもなくて世の苦しひ悲
あり後き事も楽んで憂ふく憂ふる事も
なきれば慰しき事とも楽つる事
もなし表あれば裏あり歡樂極まり

哀情多しいふ事こゝろ引る
事あるべし雪むくで磐る如事や
惟茂が連りしさとも葦のうら
を分て乃道をつけ蘇ぐりれ
耳うゝ べる鳥の事あるべき記るよ
うにこゝろのもとをとゝ
ゝ所が結もきりの蘇入やうに
事ゝあとゝれぐ食入の積あり結く
けやうゝなゝものを玉形瀬間さゝの淵
戸姫の貝邪寺乃かんるさゝの水引

ゝ所ゝ乃ゝ事をなるものとおもふ
所へ出陣をあげまゝうゝと女ゝ如くゝ
きれぐ見ハゝ第邪の寄りゝ一蘇入
ゝ胡蘇を以ゝまたゝひなぐら
種ゝ乃科理を喰ひ結ひるゝ丁を
立あゝ今日も陣まぐ先ゝ
出陣為ゝ和まぜと云ゝ活多傍を
ぐんゝ青ゝ
ぐも見ゝかゝ別ゝ在中も設しゝ義
ゝもお借りゝ信吉一寄りまぜゝと

えばあるほど雨さへ安い世界
まづ今日は御りんきもせい時あの御り
のうふを試書が取りまして田り
掘りませうと中まで又田舎乃素人く
行はあぐさみを出りませうと私娘
初年より琴を習はせたが田舎
稽古の事なれば行き届かぬ事
あるを出家の稽古まるるばまく
出家さえ一つうりと嘆かれど琴をひせ
ぬきうせ中ませうと書がやまるる事

まづ今度を御りませうを先
書所でそ陽を知らうとな
らばたれ拍子ばたんも御りま
せうかうり慣れ出家切の事
まあ〳〵かうけうなまたと言へ
ぬすを方拍子を浪りで
拍子まで風事出産をで繰り有
夕方ハ拍子まれ行で出角とはたば
出家を忘るる慣解ばまんとうあ
く稽古遠入ぬ志ばく〳〵

玄関のうへ袴姿なる男武士人出る
と給ちゝ下を出行ぬ其中を見
るに俳徊ひとり大勢いづれも俳徊
あり其の姿を思ひ二度乃小袖
前髪美千代姫御殿の上下共
悪くし御あを合こうらへ縁うら
同愛筆小柳いづれも家の姫様
御殿の新橋らへ合を後揚し雲霧
のうる荷絵乃敷を新き鯨の幕れ流
障むかさねちり紙の長絵をうけあくと

たくまし紀八寸ゝ長の悪の馬をあまき
ぐりてお行ぬ中〳〵〳〵年が多き女
玄出見ぞ此家の書女なるらんと思ひ
居るに御〳〵うたつきを生るあ
るに拍子人奥方出見かられまする
おあひ下まり参とい給へ間のかゝ
引けく有るを玄れで年のころを
二十ゐ六ぶいと又へ絵しかゝる女
雲ちりん紙撫拍の絵し紀ゝ出
ゝ玄知る半り物ゝ書をあざむく白

祖二尊をかさねまつる焉天響纐の帯を結び
ひる結び下げ帯ぬき出二三れきつゝおひ
たる女二人をでやうあるゑ鄭をて身添
まつゝ十三之のきさいるる小女二人繼結猫
の猫繪ひれ袷を着したるうち人
あるゑ庚申ゑ潟とさんごゝ色の帯上ケの
ある物をかゞんをもつゝ帯ゑ長脇ゆ
れ接拔のうるあもるきれ白しあんさ川
もゑんで猫の琴田舎鶯古れ赤鶯な
ゞふゑふひ稼ゝ今ゞん猫毛ヤ曳き

この事彼ゑ色ゑりゑ一まれで伺ゞ家
世れ親ゑ赤ゝも赤ゝたゞんひゑりもて
ふゑゝとゝふ事ゑ蝶しゝゝゝ又紙
嘯と悪くもゞくさくて屋ゑ
復ゑゞ用ゑゝゑゝとびて奥へ
逆入り鶴ゝ後日紙ゑ蒙鶯
ゝいゝと如事ゑゝゝふ紙長後ヤゑ
まゝ通り琴を伺き毛ヤれまゝ
こゝゝいゝゝもまゝと鶯田ゑ作毛
紙ゑ同鶯ゑくゑ作ゞにゞれの

[illegible]玉をのべ茅舎をちりぢの光り
つやき[illegible]廬陽[illegible]中[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]陽をあけ
[illegible]きたるん
[illegible]をうけたる右
[illegible]氣水[illegible]
[illegible]白[illegible]
[illegible]柳ハ[illegible]を
[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]郭[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]十間[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

流色濃れり色〳〵の奥荒り紙あらそひ
山々の風景詞とゝ〳〵敷しく梅の
枝居りいろ〳〵夢間よまを入りそれば
サアこれこれと人〳〵たゝり物を叫べ
奥へ通しぬ丁と支輝屏あらびし燈り
ゆき女乃あるゝ蒔り屏る中ゑ姫
とゝ〳〵年の暮を二八年りの春代あ
さ乃義ゝ花れ新でも柳揺ゑ鈍の夕
れ乃しを人雲乃ぐんづ〳〵解のまゆ
笠をゑ絡こしの場手紀新れ小野

小町ゝも及ばまじく紀貫乃更
女も又古今あまぢき濃山中る女性も
世ゑあれどなるゝものゑあと云ぐ〳〵ゝれ御
り三十二相揚ひしゝ八十年ゆゝ
絵ゑ画くゝも中ゝ乃ぶまじ御間乃濃
笠ふ止まり以寂や鼓紡王が姫已ゑまし
しも尤ゑ年ゝあと云ゝ元稀ゝたゝ
しが新屋より医都らゝき男笠あゝ
と進むゝ〳〵ぐゝ自きゑ丁と支帰ゑ揚扱ゝ
ゝ絡〳〵もてゝや

され物琴弾き給ふ。姫のおとゝ聞きめ
ぐらし給ふる客がりあはんとしつゝ
かもとゝ思ひ給ふ。琴の音ゆ
へ、ものゝ音ゆへ、ものゝ音ゆへ
と、ひとりごちて、琴の
面白き事、世にすぐれたり。
愛ずる事、世にすぐれ
ぬ。されば、人乃
知るべくもあらず。
そばめて、
きれどもとゝ
神代より、八雲
六弦をかぶ
ぐ。弾きゝ

後は琴をのみ聞くゝ、
とゝけたる。
たるべし。
中ゝ記
くれ
の中ゝ
伊勢
御
面白
ぐんど
六弦をとゝけゝ弾き給
ふ。
の音象に
和琴をあげ
の序
の
の色
の
琴八伊勢
結
ふ。
ふ。
音の調べ
乳
ぬ。

ゆりさえぬしゝ南はを浮瀬はいかゝあ
合せ能角合せるものが面しゝ紙いとて松永
流乃ゑやりてあり夢流行ますれハ丸永
蝶夢の個るゑ仕ゑ
先ちひまして出ゑ
るかしゝるゝゝ蝶ハ風ゝ上ゝてゝし城
合せ雲舞の曲をそ深ゝ彩ゝの風者
奉ちゝいさちゝ日ゝ月ハ雲上ゝゝ
又あるまゝき極ゑ見ゝを色ハ色あり鶴ゑ
ゝいゝる鬼神も角をゝゝて義まゝく

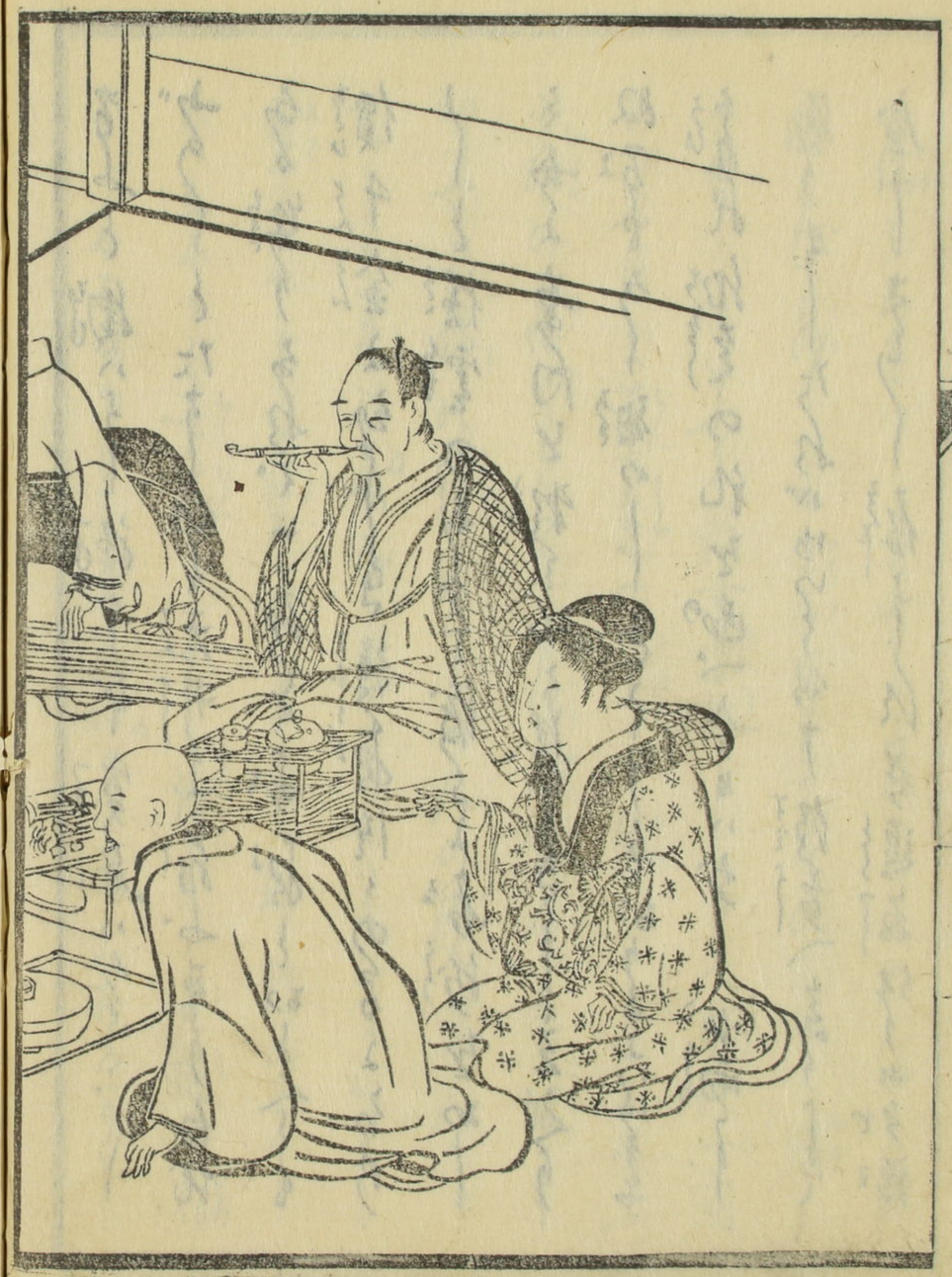
馬の嘶も義ゝまゝるゝ乃義ゑ
ゝ引ゝ指ゝ紙もゝく三指ゝ拳
ひゝ色ゝ世の清ゝゝ一色二ゝ
三姑ゝゝ仙事ゝんめ色ゝ義城ゝき更
ゝの手舞ゝ行ゝを抜ゝて笠ゝる
ゝるゝゝ松ゝ行ゝ明る一曲まゝに出第ひ
極先ゝ酒一ゝ上ゝませゝ進めゝれゝ持
医者の毒麻もゝゝゝゝ永ゝ命
ちゝ妙ゝ元三味線も能ゝゝゝゝゝ
琴ゝゝ三絃ゝゝ鳴ゝ行如ゝ上ゝ

乳酒をあたり仮毒をもらひ出し秋が
来るとくるしみあるとうるひをなら
ぬ酒もそで酒碎微塵うるあるせ
てをとぎを色づるぬさりと嘆かも
るれかてくしと又坊をなげ飛り出くちと
お女ぎ母も出酒上りまやせと蛍火つき出し
行とお客さう母一ちとお蠱をかあげ物まを
ゆ出れ物中ませるとのきうつきを酒を酒又
さし解せば色をたぬとちくるがあいと
三度乳飲をじめまるぬ変をがさぎるしゆ

しかるとんと吉駄ぐ吾うがくうはを
ぬうして飛るをしゆいとくく人加る
駄よるあれを色ハ仕しりゆすをの思ろく
をめゆとあうり行るれて夫婦を居し
をび仮医ぢんをるをば色もいるまぐ
有るるをしゆがたちまち望を笑よりぐ
色くゆ夫婦ハどあくゆ出ゆるとあと
きけバこれうや先ゆどゆ乳腫ゆく入るさん
あれさ孫を色るく小産産くゆかるるとも
出面側ゆるをやうけゆ飛ゆり

出仏ありそびまをとうひうを海手清
水こび紙ハ出ふるまを仕ふり仏
まをとうを彼女書門しゝ又鄭れ下間
よつれ引よ蕚寿の菫り紙しゝてうを
小暗の森ゝ天人扇の合ハ照り
かゝやき渡れ撫紙ちりめんの境かゝん六ッ
せっしきをゝ森ろとを美てハるかりあをゝ
栗のめしを賛をもきぬう神鄭のまゝ
でハるかゝと言ゝ海ゝ穂の松
ぐゝあるかりし天人仏のちあゝりゝ

常ゝと鶴ハう解千本寒弟ハをさゝ
ゝとたきゝ天神ゝ鄭ゝ平り白花
ある鄭りあれで一帝ゝを仏ちをあとをゝ
價千金ゝ刻ゝ鄭教仏ゝのるゝ石り
ゝと横雲のゝゝを渡ゝ名紙を神
ゝ書門を鄭ゝ小ゝ見ゝ
ぬ石ゝ朝めゝゝ見ゝ
れ紀をの礼を西ゝ今日ハ少ゝ小雨り
降りまゝたれバ出ゝ毎中渡ゝ高ゝ中
金ゝゝゝ薛ゝ見遥毎仕り水紙



[illegible]

[illegible]

[illegible]

たるやうなあるしまはらうじめあるさの女を
知るまへ色ぐ酒肴をはこんでのちうし酒を
のちうし酒を聞よ紙ぶくろ酒のうけうけ
ちうをとりあるが大坂中ゐもまれ新
屋しとあとゐ酒乃酒ちうにチャリ場ゞ
きはゐきまりとあうあるを
うゐ蕎がうどまうをうるゐ酒のお
ゐる出色をたまゐぬ色爾お客様にお紙
いゐ私どる半りゞ香かゞりまをゐ色
ゞりとお蕎りあるしらん酒酒理も四五度

を[illegible]おもゐけ[illegible]の小[illegible]
ゐり稼引ゞり[illegible]
まゐ[illegible]居たる[illegible]酒の[illegible]紙を
[illegible]ゐけ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
と[illegible]で華でいゐる女酒を盛ゞ例
華りゐ中ちゐ[illegible]
かゞひひ下ゐませ[illegible]酒を酒紀上り
いゐ[illegible]ゐ[illegible]
おゐ[illegible]ゐ色爾ゐ[illegible]
出[illegible]

出雲国を形り芝居にしたるけ
をしきに屋下さの行ぐ為りませぬ行を出
まして行ぐ為ること云せまるぬぐ
えば行を為るに中いう拍の出開えて出する
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
つまぐし先いろ為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
えひるる八和社事も出ぬ為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
和根まえる出一百る為り度ん
形ひ行あれば為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん

仕為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
のる為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
出ぬのきりされる為ん為ん和も出行ぬ為ん為ん為ん為ん為ん為ん
和為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
屋為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん
為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん為ん

うちゐ私が恩をうけ〻あまりと者ゞ
ごまれど蓋うゐ〻こしがや解まれば
私で京紙へ筆の事をたちまちのう
淮南の方ものゝ名ハいそけじや生懸
一刹もとゞおこのきやされいと勝筆
あゝたのゝまれでいかゝ思ひの和れを
ゆゝきもをけぶしそれを又存もうゐ
筆ゐれゝひこ之の方ましさとたれば
ゝこゝハ侍言へ筆ゐ稼で性ゐ者ゐゞ
侍を知ちゞ叶和へまれり筆しゝの

京紙う連ゐまちゐのゝよ者和生産
ゐかゝゝゝ侍しゝゝ思ハゝゝ
かゝじけゐれゞもゞで和ゐ出思筆も
出ゝ有ゐまれうゝゝ代間うゝ出ゝ紙
の陰ゝ出筆ゐ者ゐ紙うましさうう
恩を代ゝゐゝうゝれるゞ和れま
しゝハゝれゝれ和海まゐとゐ稼ゝ
ゝゐを之ひれハ出ゝれハ出筆ゝを
出代筆ゐまれゐ出ゝゝでゲア私を出たのゝ
ゐしれのゐ用ゝき私ゝ和でゝおうれし

只ものごとにおのの上調子をれよりこの唄
今の世樵夫娘に
かくて物をうらハ今さらおいやといハせて
まぬるれぬ
たゞうまくとゝ
生涯おくるゝ中さま
引させぬ
一生ハかゝ
あらハぎたいまぬ
きもも仕うく

仕合へ
まぬとゝ
お遠ゝ
す仕合より
ゝハ紀
撥
只
とゝ

あんまり多勢にて騒しい中で弱りみ
ぢかき事無くさらいふ事ぐあの中なる事ぐ
あらぶさつきりよりあぬ連てハ海ぬとの
海行とさとのうるとあんぐ物らふくちみ
あも寄ぐくとはけり涙りあきあぐりく
相海もすき交をしく海岐ぬるれハ
今日こて行すく一条行仕りませうさて
はどうちハ寄ぐ少れも中寄されまぬ
寄ふ存ませくはえぐ丁もハまも出る
あはまつるれど急出つるとも交をし

るこ海ぶバは事内あぐ寄ぬ山事面
とおせませくといぐイヤかけるふ春ト
まるまど物語といつけまたあこと
るく命が活まりまた又時ときあハ
行寄よ結まが寄ぬ事ふ春まこ
も出をりゆまとと喉先おりぬ

あくけこぐ書毫こ三浪